R&Dフェーズ｜研究　**実用化時期**｜FY28-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#E03

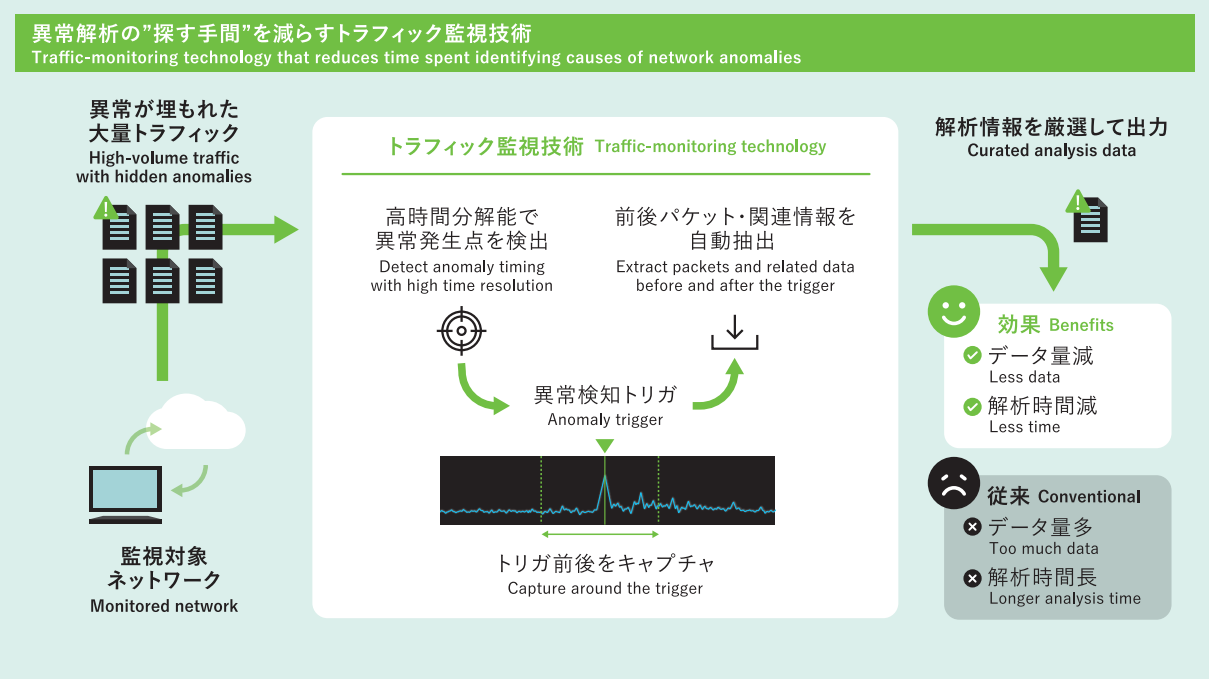
#業務効率化#DX・AX（デジタル変革）

異常発生前後の通信証跡・解析情報抽出技術

高時間分解能でトラフィック異常を捉え、解析情報を自動抽出することで原因解析を迅速化します

技術課題・ゴール

ネットワーク障害時には、短時間の異常変化が膨大な監視データに埋もれ、原因解析に必要な情報の特定が運用負担となっています。本技術は、集計値ベースの監視では捉えにくい短時間の通信変化から異常発生点をピンポイントで捉え、その前後の通信情報のみを効率的に取得することで、原因解析時間の短縮をめざします。



技術ポイント

要素技術

・1Gbps対応の全パケット監視により、短時間の通信変化から異常発生点を検出
・複数の異常検知結果を組み合わせて異常を判定し、検知前後の通信証跡と解析関連情報を自動抽出

市中技術差異点

・従来の集計値ベース監視では捉えにくい短時間の通信変化を、全パケット監視により捉え、異常発生点を特定できる
・異常前後の通信データに解析対象を絞りこみ、原因解析に必要なPCAPを約1/3に削減（初期評価時）

適用ビジネス/ユースケース

コミュニケーションサービス

ネットワーク障害発生時に、本技術が異常発生前後の通信証跡と解析情報を自動抽出し、LLM・AIエージェントや運用者へ提供することで、原因解析の迅速化と運用負荷の低減を実現します。

出展組織

NTT株式会社 IOWN総合イノベーションセンタ